

第41回 県下小中学生剣道基本競演大会 試合要領

1 試合内容

(1) 小学生の部〔高学年（5・6年生）中学年（3・4年生）低学年（1・2年生）〕・中学生の部ともに団体試合とする。

(2) 小中学生ごとに予選リーグ、決勝トーナメントにより順位を決定する。

(3) 予選リーグでは、切り返し、打ち込み稽古を先鋒から順に両チーム同時に行い、個人間の勝敗は判定とし、チーム間の勝敗は勝者数法により決定する。

(4) 予選リーグでの試合方法は下記のとおりとする。

ア 小学生（高学年・中学年）中学生ともに、主審の合図により先鋒の選手から切り返し、打ち込み稽古を下記のとおり続けて行うが、元立ちの順番は次のとおりとする。

①大将・②先鋒・③次鋒・④中堅・⑤副将とする。

ただし、小学生中学年の部は3人制のため次鋒と副将を除く。

(ア) 切り返し・・・・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち。以上2回繰り返す。

(イ) 打ち込み稽古・・・・初めに指定した打突を行いその後、自由打突とする。指定する打突順は次のとおりとする。

①正面 ②小手 ③小手→面 ④小手→面→胴

⑤面→体当り→退面 ⑥小手→面→体当り→退面

以上を1回行い、その後は元立ちが与える打突の機会をとらえて打ち込んで行く。

※切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る。（元に戻らない）

(ウ) 時間は、切り返し、打ち込み稽古を含み小学生（高学年、中学年）、中学生ともに40秒とする。（各コートの時計係が計時を行う）

イ 小学生（低学年）は、主審の合図により先鋒の選手から切り返し、打ち込み稽古を下記のとおり続けて行うが、元立ちの順番は次のとおりとする。

①大将・②先鋒・③中堅とする。

(ア) 切り返し・・・・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち。以上1回。

(イ) 打ち込み稽古・・・・初めに指定した打突を行う。

指定する打突順は次のとおりとする。

①正面 ②小手→面を2回のみ。（時間は計時しない）

※切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る。（元に戻らない）

(5) 決勝トーナメントでの試合方法は下記のとおりとする。

ア 小学生（高学年、中学年）及び中学生の準々決勝まで基本競演大会要領に基づき行う。

イ 小学生（高学年、中学年）及び中学生の準決勝、決勝は、全日本剣道連盟試合・審判規則・同細則ならびに運営要領により行う。

(ア) 試合時間は小学生2分、中学生3分、3本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は引き分けとする。

(イ) 勝者数が同数の場合、取得本数の多いほうを勝ちとする。

(ウ) 取得本数も同数の場合には、任意の代表により代表戦を行う。代表戦の試合時間は小学生2分、中学生3分、1本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は、2分区分切りの延長戦を行い勝敗を決定する。

ウ 小学生低学年の部は、決勝戦まで基本競演で行う。

(6) 補員との交代は認めるが、いったん交代した選手の再出場は認めない。

2 基本競演試合及び審判要領

(1) 試合開始及び終了時の相互の礼は選手全員が面、小手をつけ、竹刀を持って行う。

(2) 試合の開始は、9歩の間合いで立礼をした後、開始位置で蹲踞し主審の「始め」の号令により切り返し、打ち込み稽古を行う。

(3) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、立って構えたまま判定を待つ。

(4) 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。(判定基準は、3予選リーグ判定の基準参照)

(5) 審判員は主審の「判定」の宣告で、勝者の紅白いずれかを挙げる。

(6) 主審は勝旗を確認し、「勝負あり」と宣告する。(判定に引き分けは認めない)

(7) 補員との交代は認めるが、いったん交代した選手の再出場は認めない。

3 基本競演判定の基準

* 所作・礼法・着装等ができ、充実した氣勢で身体を大きく使い、強く、正しく速く、刃筋正しく、軽やかに気剣体一致の打ち方であるかを総合的に判定する。尚、詳細は次のとおり。

(1) 切り返し

ア 竹刀の振り方は正しいか。

イ 足の運びは正しいか。(退き足が歩足にならないか)

ウ 左右面を打つ角度が約45度になっているか。

エ 「正面打ち」の時、一足一刀の間合いから打っているか。

オ 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。

カ 「左右面打ち」の時、左こぶしが正中線を通り、相手の見える所まで上がっているか。

キ 「正面打ち」の時、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みずおち)に納まっているか。

ク 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

(2) 打ち込み稽古

ア 気剣体が一致した打突であるか。

イ 足さばきが正しいか。

ウ 間合いの取り方が適切か。

エ 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

カ 残心(気構え、身構え)をとっているか。

(3) その他

竹刀の検査は行わないが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行うこと。特にビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないこと。